

2025 年度

農村計画学会全国大会（旧秋期大会）

プログラム

日時：2025 年 11 月 29 日～11 月 30 日

会場：山形大学

農村計画学会

目 次

1.	プログラム	1
2.	発表方法について	9
(1)	口頭発表	9
(2)	ポスター発表	9
3.	会場案内	10
(1)	周辺地図	10
(2)	館内地図	11
(3)	会場地図	12
4.	学会賞表彰式・受賞者記念講演	13
5.	開催校からのご案内	14
(1)	昼食について	14
(2)	休憩室について	14
(3)	懇親会について	14

*梗概集については別紙にて作成し、HPに掲載します（会場での配布は行いません）。ただし、農村計画学会論文集に採用された論文・報告（査読付）（プログラム内の①）については掲載しておりませんので、J-STAGEでご確認ください。

1. プログラム

■11月29日（土）

時 間	第1会場 301	第2会場 201	第3会場 202	第4会場 101 第5会場 102
10:00-10:15	開会式			
10:15-10:30				
10:30-11:50	口頭発表 1-1 農村の歴史的変化とこれから	口頭発表 1-2 心理的資本と行動変容	口頭発表 1-3 国土管理と生態系への影響	
11:50-13:00			企画セッション 1 次世代による地域の“決断”ワークショップ(後編)	
13:00-14:20	口頭発表 2-1 地域社会と地域差	口頭発表 2-2 経営と組織		
14:20-14:30				
14:30-15:50	口頭発表 3-1 観光まちづくり	口頭発表 3-2 外部人材とネットワーク	口頭発表 3-3 合意形成と協働	ポスター掲示 (各自掲示)
15:50-16:00				
16:00-17:20	口頭発表 4-1 地域資源の可能性	口頭発表 4-2 情報とデジタル活用		

* 休憩室は1・2階の学生ラウンジ、3階の302号室にご用意しています。

*懇親会は18:00～20:00 会場：東京第一ホテル鶴岡

■11月30日（日）

時 間	第1会場 301	第2会場 201	第3会場 202	第4会場 101 第5会場 102
9:00-10:20	企画セッション 2 ルーラルイノベーションの出発点	企画セッション 3 日本における「農村犯罪学の可能性」		ポスターA コアタイム
10:20-10:30				
10:30-11:50	企画セッション 4 農村を支える仕組みをいかに活用するか	企画セッション 5 農村振興政策に係る眞の自治体裁量度の計測と政策への示唆		ポスターB コアタイム
11:50-13:00		理事会・評議員会		
13:00-13:50	表彰式・受賞者講演会			
13:50-14:00	閉会式			

* 休憩室は1・2階の学生ラウンジ、3階の302号室にご用意しています。

■第1セッション 10:30-11:50

口頭発表 1-1 農村の歴史的变化とこれから

コーディネーター：服部俊宏（明治大学）

1-1-1	日本農村計画研究のテーマ変遷(1982-2025) —ARP 抄録コーパスを対象とした縦断的テキストマイニング— 鬼塚 健一郎（京都大学大学院）他 1 名, ②
1-1-2	Pre-Afforestation Land-Use of post-WWII Plantation Forests in Japan —Insights from the 1960 World Census of Agriculture and Forestry— 上野 竜大生（九州大学大学院）, ①
1-1-3	中山間地域における農業エコシステム構築のあり方に関する検討 —中間支援機能に着目して— 神尾 真大郎（宮城大学）, 他 4 名, ②
1-1-4	農村地域の中心部と山間部の現代の公共的な空間のあり方 —山形県飯豊町を対象として— 植田 悠斗, 他 1 名, ②

口頭発表 1-2 心理的資本と行動変容

コーディネーター：廣瀬裕一（農研機構）

1-2-1	農村における心理的資本の役割 —Web アンケート調査結果を用いた探索的分析— 小川 景司（神戸大学）, 他 1 名, ②
1-2-2	地域と自然への愛着が農業従事者のワーク・エンゲージメントに与える影響 —心理的資本を媒介として— 法理 樹里（農林水産政策研究所）, 他 2 名, ②
1-2-3	役員の心理的資本が地域資源管理活動に及ぼす影響 —兵庫県の多面的機能支払交付金活動組織を対象として— 川除 由紗（神戸大学）, 他 2 名, ②
1-2-4	農作業安全知識の創出・共有プロセスの特性と課題 関谷 翼（東京農工大学大学院）, 他 2 名, ②

口頭発表 1-3 国土管理と生態系への影響

コーディネーター：山本忠男（北海道大学）

1-3-1	中山間集落の農地保全に向けた水系からのアプローチ —岡山県真庭市における地域管理構想の策定を通じて— 新田 直人（農林水産省農林水産政策研究所）, ①
1-3-2	森林との距離を考慮した条件不利農地の特定と管理方法の違いによる生態的土壌生产力への影響 —宮城県の水田を事例として— 林 岳（農林水産政策研究所）他 3 名, ②
1-3-3	The Impact of Farmland Consolidation Projects on Agricultural Structural Adjustment in Japan 陳 宇（明治大学農学研究科）, 他 1 名, ②
1-3-4	佐渡市における農地の利用低下と生態系サービスへの影響の空間評価 石黒 平（東京大学大学院）, 他 1 名, ②

①は査読付論文発表, ②はその他の発表

■第2セッション 13:00-14:20

口頭発表 2-1 地域社会と地域差

コーディネーター：一ノ瀬友博（慶應義塾大学）

2-1-1	基礎自治体への農業高校の移管と存続による地域への影響について －五條市立西吉野農業高校を事例として－ 中上 詩野（徳島大学）他 2 名, ②
2-1-2	地域社会における流域治水の担い手の検出 一宮城県大崎市鹿島台地域を事例として－ 錦織 彩乃（東京農工大学大学院）, ②
2-1-3	沿岸地域住民における気候変動適応意識の地域差分析 －海洋環境の変化への認識と行動意図に着目して－ 包 薩日娜（国立環境研究所）, 他 3 名, ②
2-1-4	太陽光パネルに関する条例内容とパネル設置状況・地域的特徴との関連分析 石井 裕樹（筑波大学）, 他 1 名, ②

口頭発表 2-2 経営と組織

コーディネーター：法理樹里（農林水産政策研究所）

2-2-1	「農村の自己組織化」の構造 一秋田県の GB ビジネス事業を事例に－ 宮田 真由（秋田県立大学）, ②
2-2-2	農村女性起業におけるグループ経営の持続性に関する一考察 一すし工房なばなを事例として－ 藤原 ふゆ（東京農業大学大学院）, 他 1 名, ②
2-2-3	寺院の潜在資源としての「物語」を活用した地域産品開発の取組プロセス －滋賀県東近江市の百濟寺樽プロジェクトを事例として－ 原田 弘之（大阪成蹊大学）, ②
2-2-4	中国の主要地域における地理的表示果物の購買行動メカニズム 楊 晴晴（山口大学大学院）, ②

①は査読付論文発表, ②はその他の発表

■第3セッション 14:30-15:50

口頭発表 3-1 観光まちづくり

コーディネーター：田口太郎（徳島大学）

3-1-1	農村の観光まちづくりの継続的活動を可能とする人材ブリコラージュ型活動体制の検証 －岐阜県中津川市加子母地区を事例に－ 佐藤 彩生(株式会社農林中金総合研究所), ①
3-1-2	粟島浦村におけるグリーン・ツーリズムの現状と課題 －観光客調査と民宿経営者の声からみる「地域協働型 GT」への展開－ 王 イ雪(新潟食料農業大学), 他 1 名, ②
3-1-3	トラベルコスト法による森林レクリエーション機能の評価 －都市部と地方部の連携による整備森林を対象に－ 石 佳凡(早稲田大学大学院), 他 1 名, ②
3-1-4	農業体験農園におけるモニタリングシステムの導入効果 ー圃場カメラと環境センサの活用ー 曾我 京佑(東京都農林総合研究センター), 他 1 名, ②

口頭発表 3-2 外部人材とネットワーク

コーディネーター：中塚雅也（神戸大学）

3-2-1	地域外人材による中山間地域の持続的な生活をめぐって ー石川県小松市西俣町を事例に－ 小國 美貴(公立小松大学), ②
3-2-2	地域おこし協力隊制度における隊員のサポート構造の解明 桑島 直生(山形大学大学院), 他 2 名, ②
3-2-3	過疎地域における移住者のパーソナルネットワークの実態 ー北海道下川町の事例ー 黒田 峻平(北海道大学), ②
3-2-4	離島における若者移住者の定住プロセスと要因に関する研究 －伊豆大島を対象としたヒアリングに基づく分析－ 朝賀 史織(筑波大学), 他 1 名, ②

口頭発表 3-3 合意形成と協働

コーディネーター：小川景司（神戸大学）

3-3-1	地縁組織・行政・NPO による三者連携はどのように構築されたのか？ ー石狩市浜益区の事例ー 川本 沙耶(北海道大学), ②
3-3-2	地域自治システム再編の合意形成に向けた診断手法の構築 －主要組織の役割・負担感・他組織との関係に着目して－ 内野 僖太(東京農工大学), 他 3 名, ②
3-3-3	Most Significant Change 手法を用いた地域協働活動の参加型・質的評価とその多面的効果 時任 美乃理(京都大学), ①

①は査読付論文発表, ②はその他の発表

■第4セッション 16:00-17:20

口頭発表 4-1 地域資源の可能性

コーディネーター：藤崎浩幸（弘前大学）

4-1-1	津波による被災地における地域資源に関する研究 －釜石市唐丹地区における公民館だよりを通した考察－ 郝 悠然(日本女子大学), 他 1 名, ②
4-1-2	コミュニティガーデンによる在来作物継承の可能性 －山形県鶴岡市小堅地区の「波渡なす」を事例に－ 佐藤 直稀(山形大学), 他 2 名, ②
4-1-3	農村住民向け市民農園の元利用者による家庭菜園としての農地利用 －長野県箕輪町を事例として－ 鏡 平(信州大学大学院), 他 1 名, ②
4-1-4	生業複合における昆虫養殖の価値に関する研究 －中央タイのコオロギ養殖を事例に－ 阪本 平, 他 3 名, ①

口頭発表 4-2 情報とデジタル活用

コーディネーター：鬼塚健一郎（京都大学）

4-2-1	都市農業経営における情報管理・活用の実態と事業多角化による影響 保坂 三仁(東京都農林総合研究センター), 他 2 名, ①
4-2-2	スマート農業導入が農村集落に与える影響 －その 2 施設・土地利用及び営農形態の視点から－ 佐藤 琉人(仙台高等専門学校専攻科), 他 1 名, ②
4-2-3	衛星コンステレーションを用いた水稻の収穫時期と収穫手法の推定 宮内 洋輔(京都大学大学院), 他 3 名, ②
4-2-4	日本版 SSP にもとづく高解像度土地利用予測とシナリオ別の農地分布 黄 琬惠(東京大学), 他 4 名, ②

①は査読付論文発表, ②はその他の発表

■ポスターセッションA コアタイム 9:00-10:20

p-1-1	食品企業を起点とする農産物の新規産地形成の促進要因 －京都におけるレモンの新規産地形成の事例に着目して－ 雨宮 愛(早稲田大学), 他 2 名②
p-1-2	A Restructuring Method of Scattered Village in Mountainous Areas based on an Association Network System 任 篓琳(西安交通大学), 他 2 名, ②
p-1-3	韓国農村におけるアソシエーション型共同体の実態と意義 －韓国忠清南道洪城郡長谷面・洪東面を事例として－ 和田 明夏(宮崎大学), 他 1 名, ②
p-1-4	甲突川流域における水田の多面的機能と流域治水への寄与 －棚田を含む流域内の水田の Eco-DRR 観点からの評価－ 松田 明子(鹿児島大学), 他 1 名, ②
p-1-5	無人駅の活用形態と特徴 －新聞記事データベースを用いた事例分析－ 玉手 那堯(弘前大学), 他 1 名, ②
p-1-6	地域に根ざした学習を通じた地元出身者の主体性形成過程の分析 －北海道浦幌町うらほろスタイルを事例として－ 新里 早映(一般社団法人十勝うらほろ樂舎), 他 1 名, ②
p-1-7	自然とのかかわり方が自然の関係的価値の評価と自然に対する選好に与える影響 齋藤 智美(東京大学), 他 2 名, ②
p-1-8	千葉県富里市における谷津の認知度と環境保全活動への関心に関する実態調査 戸田 祐希(日本大学大学院), 他 1 名, ②
p-1-9	通勤移動を活用した農産物運搬の成立可能性 －潜在的協力者の探索的アンケート調査から－ 奥野 智也(神戸大学), 他 4 名, ②
p-1-10	地域公共交通再編における乗合タクシー運行の実態と課題 －青森県弘前市「相馬地区予約型乗合タクシー」を事例に－ 蝦名 希美(弘前大学), 他 1 名, ②
p-1-11	徳島県における藍染産業の持続可能性と課題 吉見 大樹(明治大学大学院), 他 1 名, ②
p-1-12	促成山菜栽培農家の生産実態から見た産地存続の可能性 －山形県最上地域を事例として－ 劉 嘲(岩手大学大学院), 他 4 名, ②
p-1-13	営農型太陽光発電に関する農業委員会総会議事録の分析 －東北地方 4 県を対象に－ 齋藤 光(山形大学), 他 2 名, ②

①は査読付論文発表, ②はその他の発表

■ポスターセッションB コアタイム 10:30-11:50

p-2-1	農村計画学会災害対応委員会の活動の概要 －災害対応委員会の輪島市南志見地区における取り組み その1－ 柴田 祐(熊本県立大学), ②
p-2-2	震災復興のための伴走支援の戦略と課題 －災害対応委員会の輪島市南志見における取り組み－その2－ 広田 純一 (NPO法人いわて地域づくり支援センター), ②
p-2-3	能登半島地震・奥能登豪雨における被災集落の現状と課題 －災害対応委員会の輪島市南志見地区における取り組み その3－ 山道 未貴(熊本県立大学), ②
p-2-4	被災地住宅再建プロセスにみる住民と行政の交錯 －災害対応委員会の輪島市南志見地区における取り組み その4－ 鈴木 孝男(新潟食料農業大学), ②
p-2-5	令和6年能登半島地震後の地域組織ネットワークの可視化 －災害対応委員会の輪島市南志見地区における取り組み その5－ 山崎 真美子(東京科学大学), 他1名, ②
p-2-6	農作物鳥獣被害対策における環境整備の実施の要因分析 －鳥獣被害防止計画に関するWebによる悉皆的調査より－ 迫田 晃太朗(茨城大学大学院), 他2名, ②
p-2-7	衛星Wi-Fiを活用した大規模柑橘園地での情報通信環境整備の実証 山田 寛大(三重大学大学院), 他5名, ②
p-2-8	衛星データによる圃場の排水性評価マップの地域計画策定への実用性調査 －三重県三重郡菰野町千種地区における事例－ 篠原 健吾(農業・食品産業技術総合研究機構), 他1名, ②
p-2-9	シミュレーションによる農地集約の効率化効果の見える化 吉村 亜希子(農研機構), 他3名, ②
p-2-10	水田景観におけるトノサマガエルの分布と生息数を決定する環境要因 －農法, 局所要因, および周辺土地利用の影響－ 帶島 広夢(金沢大学大学院), 他1名, ②
p-2-11	群馬県昭和村の扇状地上の防風林の変遷と保安林との関り 大澤 啓志(日本大学), ②
p-2-12	一般法人による農地所有権取得の可能性に関する一考察 －特定法人による農地取得事業に対する自治体の評価を通じて－ 工藤 行晴(東京農工大学), 他1名, ②
p-2-13	大学・地域連携への CSA(Community Supported Agriculture)の導入可能性の検証 －農学部の学生・教職員を対象としたアンケート調査に基づいて－ 大石 卓史(近畿大学), ①
p-2-14	大学・地域連携における CSA(Community Supported Agriculture)の実践が大学関係者に与える影響 －近畿大学農学部と奈良県曾爾村による「そにのわ CSA」の取り組みを対象として－ 河邊 優作(近畿大学大学院), 他3名, ②

①は査読付論文発表, ②はその他の発表

■企画セッション

1	次世代による地域の“決断”ワークショップ(続編) 中島 正裕(東京農工大学)	11/29 (土) 11:50～14:20 第3会場
2	ルーラルイノベーションの出発点－山形県の挑戦－ 斎尾 直子(東京科学大学)	11/30 (日) 9:00～10:20 第1会場
3	日本における「農村犯罪学」の可能性 －農山村地域における犯罪と対策の実態報告－ 雨宮 譲(筑波大学システム情報系)	11/30 (日) 9:00～10:20 第2会場
4	農村を支える仕組みをいかに活用するか 服部 俊宏(明治大学農学部)	11/30 (日) 10:30～11:50 第1会場
5	農村振興政策に係る真の自治体裁量度の計測と政策への示唆 －新たな国と地方の役割分担を構想する－ 莊林 幹太郎(総合地球環境学研究所研究部)	11/30 (日) 10:30～11:50 第2会場

2. 発表方法について

(1) 口頭発表

- ・ 1人あたりの発表時間：発表 13 分、質疑 6 分とします。
- ・ 会場には発表者自身で PC を持参し、会場のプロジェクターに接続してください。
- ・ 会場に用意されているプロジェクターの接続端子は「HDMI 端子」のため、持参する PC に HDMI 端子が附属されていない場合は、自身で変換アダプタ（USB Type C - HDMI Type A 等）を持参してください。
- ・ セッション開始前の休憩時間を利用して、各発表会場でスライドの動作確認を済ませてください。
- ・ セッション中はコーディネーターの指示に従ってください。

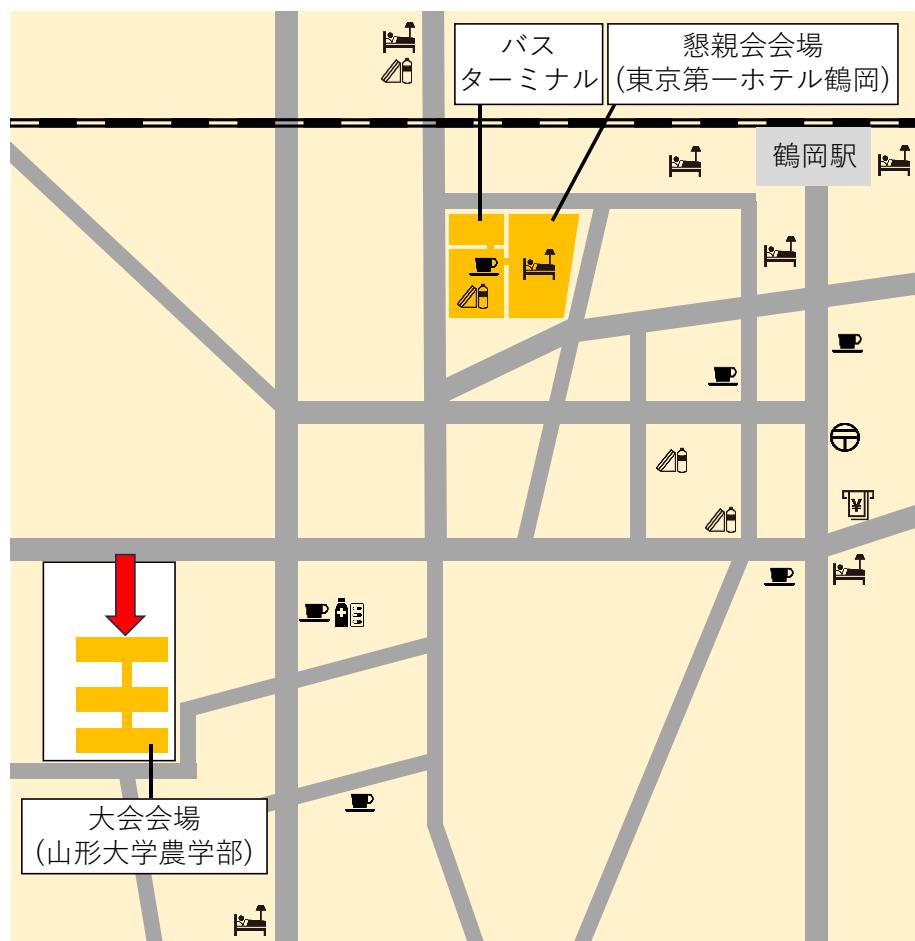
(2) ポスター発表

- ・ ポスターは 11/29（土）13 時～17 時 20 分、または 11/30（日）8 時 30 分～9 時までの間に所定のパネルに展示してください。
- ・ 発表者は指定のコアタイム中はポスター前に常駐し、発表内容に関心を持った聴衆に対して自由に発表・質疑を行ってください。
 - ポスターA のコアタイム…11/30（日）9 時～10 時 20 分
 - ポスターB のコアタイム…11/30（日）10 時 20 分～11 時 50 分
- ・ コアタイム終了した後も 12 時 30 分までポスターを展示したままにし、その後、発表者が各自持ち帰ってください。

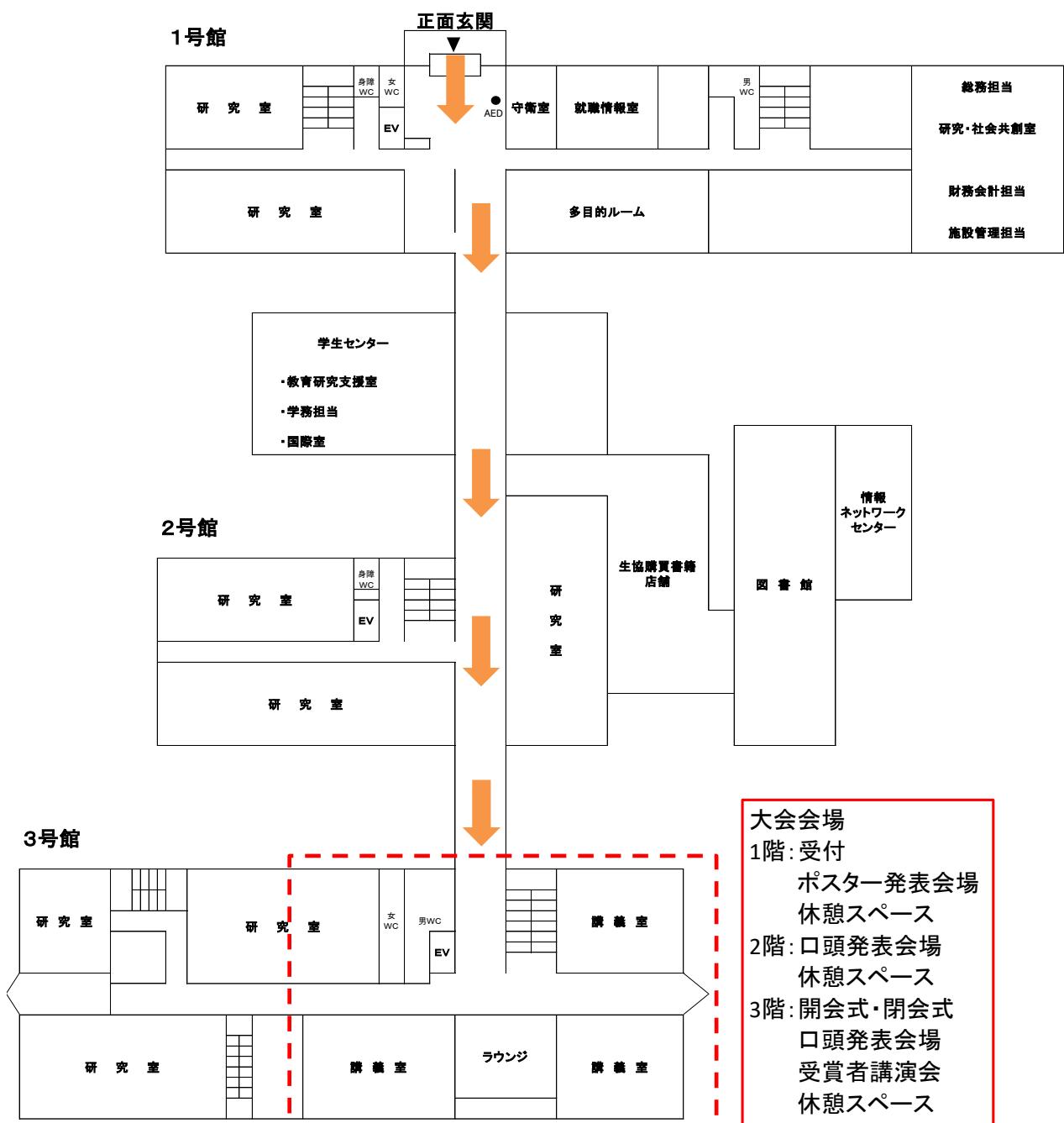
3. 会場案内

山形大学農学部 鶴岡キャンパス (〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町 1-23)

(1) 周辺地図



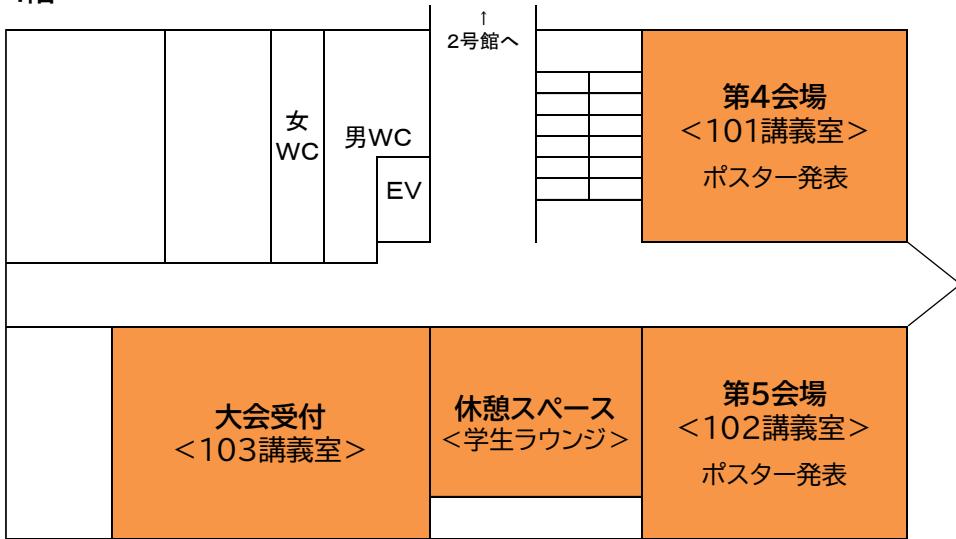
(2) 館内地図



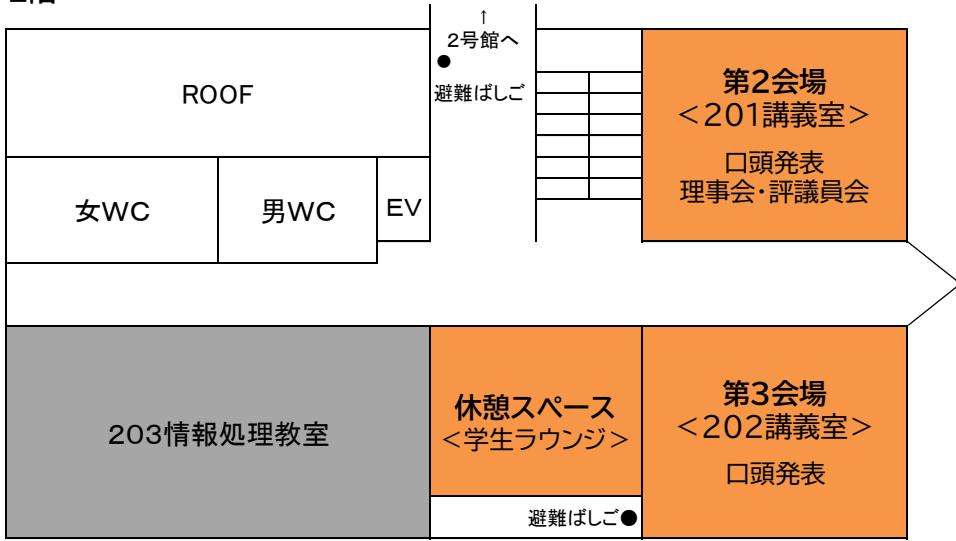
(3) 会場地図

3号館

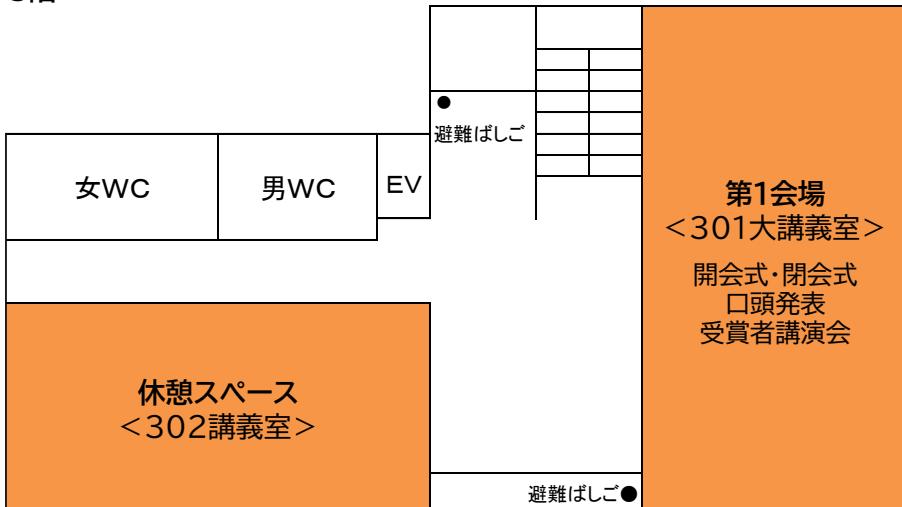
1階



2階



3階



4. 学会賞表彰式・受賞者記念講演

1. 日時：2025年11月30日（日） 13時00分～13時50分

2. 主催：表彰委員会

3. 受賞者：

(1) 奨励賞

大垣宏介（株式会社平成建設）

「東日本大震災における津波被災漁業集落の震災前後の漁業実態変容と復興課題」

【主な業績】

- ・ 大垣宏介, 斎尾直子 (2014) : 東日本大震災津波被災漁村における復興の動向と課題-三陸沿岸漁村の震災以前の実態, 被災・復旧状況, 復興に向けた活動を対象とした広域・相対的分析-, 農村計画学会誌, 33(Special_Issue), 197-202
- ・ 大垣宏介, 斎尾直子 (2016) : 東日本大震災における津波被災集落の漁業実態変容と復興課題-岩手県・宮城県沿岸部における震災前後の広域・相対的分析と「通い漁業」実態の考察-, 農村計画学会誌, 35(Special_Issue), 167-173
- ・ 大垣宏介, 斎尾直子 (2022) : 震災前後 10 年間の漁業実態変容から見る東日本大震災津波被災集落の復興, 日本建築学会計画系論文集, 87(800), 1954-1963

(2) ベストペーパー賞

井上果子（宮崎大学）

「人口安定型農山村小地域の特性にみる持続的地域の論理」

（農村計画学会論文集, 4(1), 67-77）

中塚 雅也（神戸大学）, 小川 景司（神戸大学）, 平井 太郎 会員（弘前大学）

「農村版心理的資本尺度の開発」

（農村計画学会論文集, 4(1), 27-33）

(3) 優秀発表賞

*大会当日に発表予定

5. 開催校からのご案内

(1) 昼食について

学内には飲食店はありませんので、ご持参いただくな、周辺の飲食店をご利用ください。

(2) 休憩室について

持参弁当等、1・2階の学生ラウンジ、3階の302号室で飲食可能です。ご自由にご利用ください。

(3) 懇親会について

懇親会を次のとおり開催します。

日時：11月29日（土）18:00～20:00（受付開始17:30～）

場所：東京第一ホテル鶴岡（山形県鶴岡市錦町2-10；2. 会場案内（1）周辺地図を参照）

料金：事前申込み制（当日参加費 一般6,000円、学生3,000円）